

「大坂の史跡を訪ねて」連載29回目

旧南区、天王寺区周辺

オサタニ ヨシハル
長谷 吉治

1 小松帯刀寓居跡 お琴(小松帯刀の愛人)の住居跡

大阪府中央区西心齋橋1周辺

▶ 明治維新に貢献した薩摩藩家老小松帯刀は、維新後、新政府に出仕し、外国事務掛に就任するなど大阪で活躍をしました。小松帯刀は幕末期から激務が続き、体調は思わしくありませんでした。

明治2年(1869)5月、療養するため官を辞し、大阪の大宝寺町にある愛妾 お琴(琴 仙子)宅で養生します。

お琴は京都祇園の名妓で、小松帯刀とは文久3年(1863)12月26日、近衛家桜木邸で催された公武合体派公卿との宴会の場で出会いました。

国元にいる正妻 千賀との間には、子供に恵まれませんでした。お琴は芸技だけでなく学問にも優れ、ことに和歌の道に秀で、美しい情愛の持ち主で、帯刀が病床に臥すと献身的に看病しました。

大阪医学校のボードウインの治療を受けましたが、その甲斐もなく、明治3年(1870)7月20日永眠します。

お琴とは男女2名の子を授かりました。

男子は安千代、女子はおすみと名づけられました。安千代は帯刀の死後、国元の千賀に養育され小松家を継承します。

おすみは、お琴と大阪に残り、同じ薩摩藩出身で親交が深かった五代友厚に世話になりました。



さて、小松帯刀が養生先としていたお琴の住居は、大宝寺町にありました。

資料が少なく、場所の特定が極めて難しいのですが、現在の心齋橋周辺に該当し、丁度ホテル日航大阪が建っている北半分、あるいはそごうの駐車場あたりと推察します。

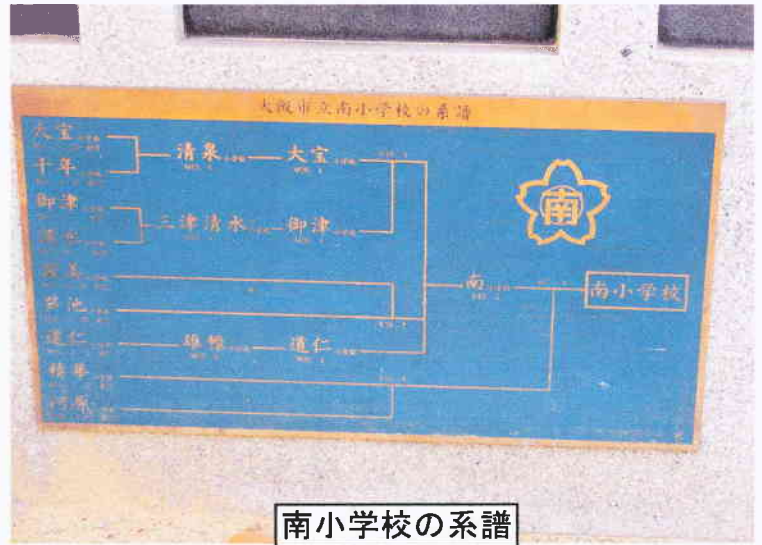


小松帯刀墓所跡 (大阪市天王寺区夕陽丘5)

小松帯刀の墓所についてはこの「大坂の史跡を訪ねて」連載25回目で紹介済みですが、一時期、夕陽丘に埋葬されていました。

2 明治天皇駐輦記念之碑 大阪府中央区東心斎橋1-14(南小学校内)

- ▶ 明治10年(1877)2月、明治天皇がこの地を行幸され、大阪市立南小学校(当時は大宝小学校)内に記念碑が建てられました。



3 橋本宗吉 絲漢堂跡

大阪府中央区南船場3-3-23

- ▶ 橋本宗吉(1763~1838)が開いた蘭学塾 絲漢堂(しかんどう)跡です。橋本宗吉は傘の紋描きを家業としていました。幼い頃から記憶力に優れていた点を間重富(長涯)と小石元俊(京都の医師)に見い出され、二人の援助により江戸の大槻玄沢のもとでオランダ語を学習しました。4ヶ月間、江戸の滞在期間中に覚えた単語は4万語ともいわれており、記憶力が高かったことが窺えます。帰阪後、蘭学本の翻訳を行なったほか、開業医をしながら蘭学塾 絲漢堂を開設しました。西洋科学の研究・教育に努めました。彼はまたエレキテルの科学的実験も行い、日本の電気学の祖とも呼ばれています。門真市に本社がある国内大手電機メーカーの庭に彼の銅像が建立されています。



門真市にある橋本宗吉(曇齋)の銅像

4 加賀藩蔵屋敷跡

大阪市西区南堀江1-4~6

- ▶ 以前、「大坂の史跡を訪ねて」の連載13回目に北区中之島にあった加賀藩蔵屋敷跡を紹介したことがあります。同藩は道頓堀川に面した地にも蔵屋敷を所有していました。場所は西横堀川と道頓堀川が交差する北西角です。西横堀川は昭和37年(1962)に埋め立てられ、跡地に阪神高速道路が建設されています。



加賀藩蔵屋敷跡(○印のあたり)



道頓堀川と旧西横堀川との合流点

5 難波御蔵・難波新川跡

大阪市浪速区難波中2-8

- ▶ プロ野球南海ホークス(現、ソフトバンクホークス)の本拠地である大阪球場がありました。その地は、江戸期、幕府の御蔵(米倉)があったところです。古地図などからもかなり広大な敷地であったことが窺えます。この御蔵は、享保17年(1732)に設けられました。享保、天明、天保の大飢饉の際、ここにある米が救済米として役に立ったそうです。この御蔵へ舟運の便を図って作られたのが難波新川です。道頓堀川の湊町付近から御蔵まで全長852m、幅15mの入堀でした。明治になって御蔵跡は専売局の煙草工場となり、戦後はその一部が大阪球場となりました。現在は、ファッションやグルメなどの店舗がそろった「なんばパークス」となっています。

